

平成27年度

学校評価(結果)

育てたい生徒像

- 1 知・徳・体の調和のとれた感性豊かで至誠の心を持つ生徒
- 2 人権を尊重し、民主的でかつ協和の精神に富んだたくましい生徒
- 3 勤労と責任を重んじ、自主的・自立的に行動できる生徒
- 4 自己のあり方や生き方について考える生徒

徳島県立小松島西高等学校勝浦校

総括評価表

重点課題 1
「わかる授業の展開と確かな学力の定着」

重点目標	自己評価			学校関係者評価 総合評価(評定)	今後の改善方針	
	評価指標と活動計画	評価指標による達成度	総合評価			
(全体レベル) 基礎的・基本的な知識・技術を習得させるため、指導方法の工夫・改善を行い、生徒の学力の定着と向上を図る。 (下位組織レベル) ①基礎学力の向上 ②指導技術の向上と評価方法の工夫・改善 ③授業時間の確保	評価指標 ①-1 授業の取組に関するアンケートを実施し、生徒の自己評価 80%以上を目標とする。 ①-2 2学期末において、成績不良科目を保持している生徒数が全体の 15%未満を目標とする。 ①-3 長期休業中における課題(5教科)の提出率 100%を目標とする。	評価指標による達成度 ①-1 各学期末に授業の取り組みに関するアンケートを実施し、各ホームルームにおける授業の評価や意識について把握することができた。 ①-2 2学期末現在の成績不良科目保持者は 41人で全体の 33.8%となった。 ①-3 春休み中の課題提出 90.4% 夏休み中の課題提出 87.9% 冬休み中の課題提出 81.4% 平均 86.6%	総合評価 評定 B (所見) アンケートを実施した結果、期待した結果には至らなかった。今後、授業内容の向上や生徒の学ぶ意欲の改善など授業に前向きに取り組むことができるような指導をおこなっていききたい。 2学期末における成績不良科目の保持者は全体の約 1/3 で、目標を達成することはできなかった。締切までに課題を提出することもあわせて、粘り強く指導をおこなっていく必要があると考えられる。 年間学習指導計画に関しても、生徒の実態に合わせて授業内容や評価方法の見直しをおこなっていききたいと考える。	B	○基礎基本を重視した授業の実施 ○教室の美化など学習環境の整備 ○提出物や授業に取り組む態度についての継続的な指導 ○年間学習指導計画の改善 ○学校行事の厳選	
	活動計画 ①-1 学期末にアンケートを実施して集計結果を各クラスに表示し、生徒の授業に対する意識や学習意欲が向上するよう情報発信をおこなう。 ①-2 2学期末で成績不良者が減少するよう全校集会等において、授業への取組、提出物に関する指導を実施する。	活動計画の実施状況 ①-1 各学期末に教務課がおこなったアンケートを比較すると、授業の雰囲気は良くなってきていることが分かった。授業内容の満足度は約 70%であった。 ①-2 考査前の全校集会において、提出物を締切までに出すこと、授業に取り組む態度も評価につながることを説明する全体指導をおこなった。	成果と課題 ①-1 残念ながら目標を達成することができなかった。次年度は教務課より生徒の授業に対する意識や学習意欲が向上するよう情報発信をおこないたい。 ①-2 成績不良科目になってしまった原因を生徒自身に考えさせ、年度末には単位を習得することができるよう担任、教科担当教員と連携して指導していききたい。		学校関係者の意見 日々の学習の中で、「わかった」「できた」という喜びを感じられるようにしてほしい。 そのことにより、学習意欲が高まり自分の成長を自覚できる。	○アンケートの継続 ○担任と教科担当教員との連携の継続
	②-1 授業見学会後に職員によるアンケートを実施し、職員の指導力及び授業の質の向上につながっているか、検討する。 ②-2 各科目で作成した年間学習指導計画を各教室に置き、生徒に公開する。	②-1 授業見学会をおこなうにあたり、ワークシートを作成して、先生方からの意見やアドバイスを伝達しやすいように工夫した。 ②-2 今年度、各ホームルームごとの年間学習指導計画を作成することができた。次年度以降、改善を加えたものを生徒に公開したい。	② 生徒にとって「わかる授業」をおこなうためには教材研究などの準備がたいへん重要になってくると思われる。ICTを活用するなどして生徒に興味・関心を持たせ生徒が意欲的に取り組む授業を計画、実施する必要がある。		他の教科の授業を見学することはとてもいいことであると思う。研究授業・公開授業等を実施して、教科を越えて多くの教師が参加できる有意義なものに発展させてほしい。	○授業見学会の継続 ○校内研修として、研究授業の実施
	③ 学校行事の見直しを行い、日程の調整等を徹底し、振替え補充授業を確実に実施する。	③ 先生方の出張等による授業の振替えを実施したが、一部は自習をお願いすることもあった。自習課題は教科の先生方に作成を依頼しているが、急な授業変更もあるので教務課としても自習課題を準備しておきたい。	③ 出張、年休等でどうしても授業変更が必要になるが、できるだけ自習にならないように引き続き振替え補充授業の実施を計画する必要がある。 また、学校行事についても考査などに支障がないよう計画していききたい。		普通科の教員が減少しているようであるが、教科を越えて基礎的・基本的な知識や技術を習得させてほしい。	○授業時数の確保 ○学校行事の開催時期等の検討 ○教務課による自習課題の作成

総括評価表

重点課題 2
「豊かな人間性の育成と人権教育の推進」

重点目標	自己評価			学校関係者評価 総合評価(評定)	今後の改善方策
	評価指標と活動計画	評価指標による達成度	評定		
(全体レベル) 一人一人を大切にし、互いに思いやり尊重する態度を育てるとともに、生命や人権を大切にす意欲を培い実践力を身につける。 (下位組織レベル) ①人権が尊重される学習活動づくり ②教職員研修の充実	評価指標 ①-1 人権学習ホームルーム活動満足度 80%をめざす。 ----- ①-2 いじめ等に関するアンケートを学期に1回実施し、実態を把握し防止に努める。 ----- ①-3 全学年で道徳教育のホームルーム活動を計画的におこなう。 ----- ② 教職員研修対象の研修会参加率を90%以上をめざす。また、その充実感や満足度を80%以上にする。	評価指標による達成度 ①-1 人権学習ホームルーム学習満足度は生徒が60%、教職員が80%であり、教職員の人権学習ホームルーム活動への意欲がやや反映されていないので、さらなる満足度の向上へつなげたい。 ----- ①-2 人権問題意識調査を2回おこなった。そのうち1回は同和問題に焦点をあてた。来年度の学習につなげたい。 ----- ①-3 年2回、バスマナーについてのホームルーム活動を行った。 ----- ② 教職員の研修会 校外 60% 校内 64% 充実感・満足度 83%	総合評価 評定 B (所見) 人権学習ホームルーム活動は生徒の満足度を高めるためにも、今後指導内容や指導方法の改善、教職員向けの人権問題研修会等の開催を検討する必要がある。いじめ等に関するアンケートでは実態を把握し、防止に努めた。また同和問題中心のアンケートから、その結果が来年度の効果的な人権問題学習ホームルーム活動につながると考えている。 また教職員の研修会においては日程や内容の精選など吟味する必要がある。	B	○実施内容の工夫及び勉強会の開催 ○同和問題における歴史学習の取り組みを検討 ○研修内容の検討
	活動計画 ①-1 人権学習ホームルーム活動をおこなうにあたっては、人権教育課が学年に応じた資料を提示する。 ----- ①-2 いじめなどに関するアンケートを実施し、実態把握に努め、適切な対応をおこなう。 ----- ①-3 道徳教育のホームルーム活動を実施する際には全学年の統一の指導案を作成する。 ----- ②-1 校外の研修会には、教職員が少なくとも年間1回以上参加するようにする。 ----- ②-2 校内の研修会を年間2回以上実施する。 ----- ②-3 特別支援教育の理解を深めるために、年間1回以上研修会を実施する。 ----- ②-4 特別支援関係機関との連携・相談をはかり、ケース会議を年間2回以上実施する。	活動計画の実施状況 ①-1 課からは毎回提示することはなかったが、資料や指導案の工夫などの相談に応じた。 ----- ①-2 2回目の人権意識調査は今年度改定して、同和問題意識に重点をおき適切な対応をおこなった。 ----- ①-3 行事の関係で全学年統一の指導案でホームルーム活動はおこなえなかったが、バスのマナー等の公共道徳のホームルーム活動をおこなった。 ----- ②-1 校外の研修会参加率 60% ----- ②-2 校内の研修会を3回実施した。 ----- ②-3 研修会を1回実施した。 ----- ②-4 必要に応じてケース会議を実施した。	成果と課題 ①-1 時間を工夫してホームルーム活動担当者と打ち合わせや勉強会をおこなえば、より効果的な指導につながると考える。 ----- ①-2 調査結果から同和問題の歴史をよく知らない生徒も多かったので、歴史に重点を置くホームルーム活動が必要である。 ----- ①-3 バスマナーの向上・啓発はできた。来年度は全学年統一の指導案で道徳教育のホームルーム活動をおこないたいと考える。 ----- ②-1 全教職員が校外の研修会に参加できるように計画したが、他の出張や校務と重なることがあり、60%の参加率となった。 ----- ②-2 予定どおり3回実施できた。 ----- ②-3 生徒の「学校生活チェック」をおこない、それを元に個別に焦点を当てた研修会を実施することができた。 ----- ②-4 中学校の聞き取りなどをまとめたものや研修会で学んだことを生かしてケース会議を実施した。		学校関係者の意見 最近同和問題を扱うことが少なくなっている。同和問題が理解できたなら、すべてに通ずると考える。 人権教育の本質を見失わず、誰もが安心して楽しく学べる学校づくりに努めてほしい。 ----- 教師自身が自らの資質・能力を高め、自信を持って「人権」問題を語れるようになってほしい。

総括評価表

重点課題 3

「キャリア教育の推進と進路希望の実現」

重点目標	自己評価			学校関係者評価 総合評価(評定)	今後の改善方策
	評価指標と活動計画	評価指標による達成度	評定 総合評価		
(全体レベル) 望ましい職業観・勤労観及び職業に関する知識や技能を身につけさせ、主体的に進路を選択する能力と態度を育てる。 (下位組織レベル) ①組織的なキャリア教育の推進 ②企業訪問と求人開拓 ③資格取得の奨励	評価指標 ①-1 卒業時における生徒の進路決定率 95%以上をめざす。 ①-2 「勝浦塾」就業体験学習自己評価肯定率 80%以上、参加率 80%以上をめざす。 ②総求人数 250人以上をめざし、60社以上企業訪問を実施する。 ③取得資格数 1年生対象に実施する刈払機取扱作業教育の資格取得率 80%以上をめざす。 2年生、3年生対象に実施する農業技術検定3級の合格率 70%以上をめざす。	評価指標による達成度 ①-1 卒業時における進路決定率 90% ①-2 「勝浦塾」については自己評価肯定率 96%、参加率 100% ② 総求人数 547 訪問企業数 102 ③刈払機取扱作業教育資格取得率 90% 41名 農業技術検定3級合格率 2年生・3年生の農業技術検定については合格者はいなかった。	評定 B A A B	総合評価 評定 B (所見) 早い時期から一人ひとりの進路状況に応じて個人面談を実施し、落ち着いて将来について考えることができるようになった。 就業体験・企業訪問を通じて進路を考える機会をもてた。 資格試験については、その重要性を生徒に知らせることができ、生徒一人ひとりが真剣に取り組む事ができ個々の将来に向けた活動ができた。	B ○進路について考える機会を増やす。 ○仕事を体験することの意義を伝え、「勝浦塾」への参加を呼びかける。
	活動計画 ①-1 9月に「勝浦塾」就業体験学習をおこない、受入事業所からの助言をもらう。10月にその成果を発表する。 ①-2 職業理解・職業体験のため分野別の職業ガイダンスを学期に1回実施する。 ②-1 進路指導課・3年学年団を中心に5、6月に企業を訪問し、新規企業の訪問を20%以上増やす。 ②-2 ホームルーム活動、授業等を通じての進路指導を年3回以上おこなう。 ③-1 関係機関と連携し、各種検定や資格を積極的に取得することができるように情報提供を行う。 ③-2 農業技術検定の合格率を向上させるための取組(補習)を実施する。	活動計画の実施状況 ①-1 「勝浦塾」については、本年度は2年生全員を対象に企業見学を実施し、企業から進路に向けた指導助言をいただいた。全員参加で計画した。 ①-2 各学期に職業ガイダンスを実施した。さらに職業講話・面接練習を実施した。校外でのガイダンスも実施。 ②-1 進路課を中心に企業求人に向けての企業訪問を実施した。20%の新規企業の訪問を実施した。 ②-2 各学期において進路指導についてのホームルーム活動や授業を実施した。 ③-1 資格取得に対する意識付けを含め資料提供等を行い啓発に取り組んだ。国家検定3級に4名合格した。 ③-2 農業技術検定の受検に対して指導を行ったが合格者はいなかった。	成果と課題 ①-1 会社企業見学を実施し、勤労観が育成された。また「収穫祭」でその成果や感想などを報告し、より意識が高まった。 ①-2 職業ガイダンスを実施することで、仕事を体験でき個々の職業について知ることができた。 ②-1 新規企業の開拓により新しい求人も増えてきた。まだまだ、県内においては求人は厳しいものがある。 ②-2 進路指導等の授業を通じて、将来を考えさせる機会ができた。今後さらに充実させていきたい。 ③-1 関連産業と連携し資格取得に向けた取組が実施できた。今後合格率の増加に向けて取組を継続していきたい。 ③-2 次年度は農業科目において、基礎基本を重視した授業を行い、合格につながるよう指導していきたい。	学校関係者の意見 2年生全員で徳島県の大手の企業を見学に行くことにより、会社の実態や実務を知ることが有意義である。また得た成果を報告し、生徒自身の気づきや意識の向上につながっている。ガイダンスについても、より多くの職種を体験させてあげてほしい。 多くの企業と信頼関係を結び、求人獲得に努めてほしい。 将来、自分の得意なことを生かせる職業に就くという強い意志をもたせてほしい。 資格が進路決定に大きく影響する場合もある。簡単な「資格取得ガイドブック」をつくって、資格取得の有効性を周知したらどうか。	

総括評価表

重点課題 4

「基本的生活習慣の確立と規範意識の育成」

重点目標	自己評価			学校関係者評価 総合評価(評定)	今後の改善方策
	評価指標と活動計画	評価指標による達成度	評定 総合評価		
(全体レベル) 愛情と信頼に満ちた人間関係を構築し、社会の一員としての責任と義務を自覚させるとともに、自律心を養い規範意識を醸成する。 (下位組織レベル) ①頭髪・服装指導の徹底 ②基本的生活習慣の育成 ③交通事故の防止と通学マナーの向上 ④防災教育活動の充実を図る。	評価指標 ① 年間5回以上全校集会を実施し、頭髪・服装指導や問題行動防止に向けた生徒指導面での改善を図る。	評価指標による達成度 ① 年間5回以上実施できた。服装、頭髪についても勝浦校で統一され、共通認識の下、公平な指導が徹底できた。	評定 A (所見) 全職員が共通認識の下、生徒にもわかりやすい指導が実施できた。ただ、継続的な改善指導が必要な生徒もおり、次年度以降も粘り強い指導が必要である。	A	○生徒指導規定を見直し、全職員が共通意識を持って指導をおこなうことができたので、次年度以降も共通認識を持ち、公平で統一された継続的な指導を実施する。 ○遅刻・無断欠席改善指導については、実施方法の改善や見直しを行い、より効果的な方法で実施する。 ○地域の防災拠点としての整備を推進する。
	② 遅刻・無断欠席改善指導については、前年度から10%の削減を目指す。段階に応じて保護者面談等を実施する。	② 遅刻・無断欠席指導を毎月1回実施した。その結果2学期終了時点で、前年と比較して10%削減できた。次年度も継続して実施していきたい。	B 遅刻・無断欠席改善指導を月1回実施した結果、授業遅刻については減少傾向がみられた。しかし学年により差異があり、また特定の生徒が繰り返し指導される例もあることから、次年度以降も継続的な取り組みが必要であると考え。		
	③ 校内、校外における交通安全講習会を年1回以上、運転技能向上講習会を年1回以上開催する。	③ 交通安全講習会を年間2回実施できた。小松島警察署、県警とも連携を図り原付実技講習を実施した。また、交通事故遺族の方からの講演も実施した。	A 交通安全については、重大事故は2年続けて0件、その他軽微な事故も激減している。		
	④ 防災クラブを創設し、年1回以上地域と連携した活動を実施し、防災教育の充実を図る。	④ 防災クラブが中心となり、勝浦校を会場として勝浦町合同防災訓練を実施した。	A 防災クラブについては、地域と連携した合同防災訓練を実施するなど積極的に活動を実施することができた。		
④防災教育活動の充実を図る。	活動計画 ① 各学期の節目に全校集会をおこない、HR、学年、学校全体で共通意識を持ち連携を図りながら、効率的で公平な指導をおこなう。	活動計画の実施状況 ① 計画通りに全校集会を実施し、全校統一した頭髪服装指導等の指導を実施できた。	成果と課題 ① 計画的に全校集会、定期的な学年集会を実施することで、問題行動等の減少につながった。	学校関係者の意見 生徒に校則の意味や必要性を十分に理解・納得させて、教員全員が連携し指導している。ぜひ続けてほしい。	○継続的に実施
	②-1 朝のあいさつ運動や、日々の学校生活全般、農業教育をとおして生徒、保護者、教員間のコミュニケーションを密にし、生徒の基本的生活習慣の育成をおこなう。	②-1 朝のあいさつ運動の継続実施や、農業実習等での校内の樹木管理、美化活動をおこない学習環境整備に努めた。また生徒、保護者との意見交換を積極的におこなった。	②-1 朝のあいさつ運動についても継続実施できた。また校内の樹木管理、美化活動を積極的に推進できた。生徒の学習環境の整備については、各施設が老朽化しており予算的に厳しい面もあるが、計画的に更新、整備をおこなっていききたい。	とても気持ちがよい。雨のときや寒い朝は大変であると察するが、ぜひ継続してほしい取り組みである。	○生徒の学習環境整備に向けて校内整備の推進
	②-2 月10回以上の生徒を対象に、学校全体で遅刻改善指導を実施する。	②-2 毎月1回、遅刻改善指導を計画的に実施できた。	②-2 遅刻改善指導を実施した結果、授業遅刻については減少傾向にあるが、学年により減少値に差異があり、次年度以降も改善が必要である。	遅刻常習者は何らかの問題をかかえていることが多いのでは。常に生徒に寄り添って、基本的生活習慣を身につけさせてほしい。	○遅刻・無断欠席改善指導の方法の改善
	③-1 バス通学状況の把握と改善指導を常時行い、バス会社や地域、家庭と連携した指導を実施する。	③-1 各学期に1回、バスに乗車し指導するとともに、朝の校門指導でバス運転手と情報交換をおこないマナー向上に努めた。	③-1 昨年と比較してバスのマナーは向上しているが、本年度もバス会社からの改善要望があったため、次年度も継続指導が必要である。	バス通学指導は、公共のモラルを教える良い機会である。最近では自転車の運転マナーの向上が叫ばれている。一番は事故がないというのが大切であるので、自分の命は自分で守るということを教え込んでほしい。	○バス会社、地域の方々との協力体制
	③-2 駐輪場の整理・整頓、年度当初の車体検査、校内外の交通安全教室の開催、全てのバイク通学生徒を対象とした年1回以上2輪車実技安全講習等を実施し、運転技能向上と、交通安全の規範意識を高める。	③-2 生活交通委員による駐輪場、バス停の清掃活動、年2回の交通安全講習会を実施した。県交通機動隊の実技指導を1回、小松島警察署の実技指導を1回実施した。	③-2 交通事故件数は減少しているが、次年度は更に減少できるように指導を継続していきたい。外部講師による実技指導や地域の交通安全運動参加により、生徒の交通安全意識が向上した。次年度も継続実施していきたい。	町も引き続きダイヤ改正や増便、阿南方面の運行などを要望していきたい。	○校門前の車線の黄線区間延長、横断歩道に点滅信号設置などの要望
④ 防災クラブを創設し、学校の特色をいかに、地域と連携した活動を展開する。	④勝浦校を会場として、7月に勝浦町合同防災訓練を実施した。また農産物を利用した炊き出し訓練を実施するなど年間を通して活動できた。	④地域の防災拠点として、現在の活動を継続するとともに、次年度は施設面での整備を中心に活動を継続していきたい。		○本年度の活動を検証し、改善しながら活動を深化させる。	

総括評価表

重点課題 5
「特別活動の活性化と環境教育の推進」

重点目標	自己評価			学校関係者評価 総合評価(評定)	今後の改善方策	
	評価指標と活動計画	評価指標による達成度	評定			
(全体レベル) 創造的な活動を通して集団、社会の一員としての自覚を深め、よりよい生活、環境づくりに主体的に取り組む意欲と実践力を育てる。 (下位組織レベル) ①生徒会活動・HR活動の活性化 ②部活動の充実・活性化 充実	評価指標 ①-1 生徒の特別活動満足度 90%をめざす。	評価指標による達成度 ①-1 体育祭・文化祭・収穫祭の平均満足度 93%	評定 A	総合評価 評定 B (所見) 学校行事の面においては、生徒会を中心に活動が円滑におこなわれ、満足度も高いため一定の成果が得られたと思われる。HR活動については、体育祭や収穫祭の学年別バザー等、より生徒が主体性を持って参加できるように働きかけていく必要がある。部活動については、1年生の入部を希望制にしたため入部率や参加率の低下が見られた。今後、改善が必要である。また人数不足により活動していない部についても精選する必要があると思われる。環境面については、ゴミの分別の徹底を図るためにゴミ箱にマークをつける工夫をおこない、一定の成果もあったが、まだまだ徹底不足である。	B	○全体の計画・立案の迅速化 ○特活課と農業科、各担当との連携 ○1年生の希望制入部について。 ○部活動の精選 ○グラウンドを利用した部活動の模索 ○校内美化活動など、環境教育について。
	①-2 朝のあいさつ運動を毎日実施し、平均参加者数 8 名をめざす。	①-2 昨年に比べ参加率が下がった時期があり、目標を達成することはできなかった。	B			
	①-3 農業祭における来場者数 500 名をめざす。	①-3 収穫祭の来場者数 525 名 目標を達成することができた。	A			
	①-4 生徒会行事の度に学校 HP に掲載し、情報発信と、生徒会活動への理解と協力を促す。	①-5 学校行事の予告や結果について、ホームページに毎回掲載した。今後はより内容を充実させたい。	A			
	② 部活動の教育貢献度について教職員・保護者・生徒の満足度 90%をめざす。	② 2月末にアンケートを実施予定である。	B			
	③-1 ゴミ箱の設置方法を工夫し、ゴミの分別の徹底を図る。	③-1 分別が徹底できていない面も見られたが、一定の成果もあった。	B			
	③-2 校内清掃活動に取り組み、生徒会役員の参加率 70%を目指す。	③-2 参加率 68%。定期的に清掃活動に取り組んだが、参加する生徒に偏りがあった。	B			
	活動計画	活動計画の実施状況	成果と課題			
	①-1 本校の伝統となっている挨拶運動を引き続き実施する。参加者を増やすために、生徒会や生活委員会に強く呼びかけると共に、有志を募る活動を行う。	①-1 実施時間を遅らせたことでバス通の生徒も含め、あいさつ運動に参加しやすくなった。しかし生徒会や生活委員会のメンバーのみで、全校的な広がりは見られなかった。	①-1 学校近隣の住民の方々からも認知を受けるようになってきた。冬場や雨天時の参加者、生徒会以外の参加者の増加をはかりたい。			
	①-2 生徒による新しい活動の企画・運営が図れるよう指導する。	①-2 体育祭において、生徒発案による新種目を企画し好評であった。	①-2 新しい種目など好評な面もあったが、用具の不具合など反省点もあった。また内容の精選も必要である。			
①-3 学校行事への主体的な参画が図れるよう指導する。	①-3 学年集会を5回実施し、主体的に取り組む環境を設定した。	①-3 学年ごとに意思統一を図ることで、取り組みやすくなった。				
②-1 自然科学部は、農業の授業とも絡ませ、より地域に出て行きやすくするために、全員参加の部活動の形態を取らせる。	②-1 部活動として、農業関係の取り組みがやりやすくなった。	②-1 参加者が固定化されている。より多くの生徒が参加しやすいようにしたい。				
②-2 本校との合同練習を盛んにすると共に、地域の中学校に働きかけ、希望者を増やす活動を行う。	②-2 テニス部は本校との合同練習等盛んに交流している。中学校との取り組みはほとんどできていない。	②-2 テニス部の交流は1学期間は継続しておこない、成果を上げることができた。3年生が引退して以降は部員不足のため交流できていない状態である。				
③-1 毎日の清掃時には職員を配置し、ゴミの分別を徹底させる。	③-1 職員配置はできたが、ゴミ分別はまだまだ徹底できていない。	③-1-2 一人一人のマナー向上を目指し、ゴミの分別の徹底を図るために、生徒会を中心に呼びかけるなどの活動をしたい。				
③-2 生徒会や有志による校内清掃活動を週1回行う。	③-2 定期的に清掃活動に取り組んだが、参加する生徒に偏りがあった。					

学校関係者の意見
 生徒会が3年生から2年生に引き継がれ、人数も増えているようである。元気なあいさつは地域に力を与えてくれている。喜ばしいことだ。
 少人数の学校ではあるが、生徒たちは知恵を絞り存分に楽しんでいるようだ。クラス・学年を越えてコミュニケーションをとり、協働性を育ててほしい。
 試合に出るだけが部活動ではない。少人数でも目的は達成できる。生徒の思いを尊重しながら充実させてほしい。
 本校との交流も、できることなら続けられると良いと思う。
 エコに対する個々の取り組みや環境問題への参画意識を育ててほしい。地震に関して、勝浦では地滑り・液状化が危惧されている。これらを視野に入れた防災教育も必要かもしれない。

- 生徒会以外の生徒が参加しやすい雰囲気醸成
- 新種目の考案
- 時間数の増加と内容の充実
- 農業科とのより綿密な連携
- 本校や中学校への積極的な働きかけ
- 一人一人のマナー向上のための方策の模索

総括評価表

重点課題 6

「学校の活性化、産業教育の振興と新しい学校づくり」

重点目標	自己評価		学校関係者評価		今後の改善方策	
	評価指標と活動計画	評価指標による達成度	総合評価	総合評価(評定)		
(全体レベル) れまでの教育を創造し、地域に根ざした活力と魅力ある学校づくりを推進する。	①校外実習活動、交流学习の実施数を年間10回以上行う。 ②年間を通して野菜・果樹・草花等を中心に農産物の生産と販売を行う。 ③ホームページの更新を月平均5回以上行う。	① 校外実習活動と交流学习の実施回数(24回) ② 年間を通して野菜・果樹・草花等を中心に農産物の生産と販売をおこなうことができた。生産収入も当初予算より増額となった。 ③ ホームページの更新 月平均(10回)	評定 A 総合評価 A (所見) 地域に根ざした学校として地域貢献、環境保全活動や新しい時代に対応した農業教育を実践してきた。今後も、地域に根ざした学校として活動していきたい。	A	○次年度も継続実施	
	①本校教育の地域への還元 ②農場経営の活性化 ③広報活動の充実	①-1 地元小・中学校・特別支援学校等で土作りから栽培管理等について農業支援を行い交流を深める。(3回以上) ①-2 地元の病院や介護福祉施設へ出向き、花壇作り等環境整備を行う。(3回以上) ①-3 病院等に草花苗を提供する。 ①-4 ジンリョウユリやリンドウ等希少植物の苗の提供、植え付け、観察等増殖活動を行う。(6回以上) ①-5 棚田での田植え、稲刈り等保全活動を行う。(2回)	①-1 ひのみね支援学校1回(プランターへの草花苗の定植)、横瀬小学校4回(野菜の定植のための圃場整備やトマト・ナスの定植、ヘチマ・ヒョウタンの棚作り)、上勝中学校1回(草花苗の挿し木)、勝浦中学校1回(草花の挿し木・寄せ植え・無菌操作・トマト栽培について)、新野高校や小・中学校間連携(加茂谷中学校へ災害支援活動として花壇作り・地球温暖化防止等)(計8回) ①-2 勝浦病院(庭園管理・緑のカーテン栽培15回)、勝浦町老人会(コケ玉作り1回)(計16回) ①-3 勝浦病院の庭園管理・緑のカーテン栽培のため、ゴーヤ苗・パンジー苗を提供した。 ①-4 ジンリョウユリやリンドウ等希少植物の苗の提供、植え付け、観察等増殖活動をおこなった。(計3回) ①-5 田植え、除草、稲刈り等への参加(計4回)	①-1~3 日頃学習した農業に関する知識や技術をいかして様々な活動に取り組んできた。交流学习や学校間連携では、農業についての知識や技術を支援することで生徒自らの学習意欲が喚起され、自信となった。また、体験をとおしてコミュニケーション能力の向上や本校の取り組みについて理解してもらい良い機会となった。今後も生徒の自主性や主体性を育てるように取り組む必要がある。	学校関係者の意見 学校農業クラブの活動を通して農業の経営や流通等に関する知識・技術を実践的に身につけてほしい。生徒一人一人の役割分担と、共同作業によりいろいろな研究活動が進めていけるように丁寧な指導や助言をお願いしたい。 日ごろの学習活動の中で培った知識や技術を生かし、就職につなげてほしい。 近隣の農家の方と交流を深めてはどうか。	○校外実習活動、交流学习の継続と実施 ○生徒の自主性・主体性の育成 ○校外での活動を行うための予算確保 ○施設・設備の整備と有効活用の推進 ○研究機関や農家等の見学や研修。そのための予算確保
	②-1 地元期待されている草花や野菜等魅力ある農産物の生産を心掛ける。 ②-2 地元の農産物販売所「よってネ市」で野菜・果樹・草花等の農産物をあわせて年間6品目以上販売する。 ③-1 ホームページの内容を見直し新しいデータに更新する。 ③-2 学校と保護者の連携を図るため各イベントに応じて情報の発信を行い説明責任を果たす。	②-1 草花苗やシクラメン、メロンやトマト・露地野菜、スダチ・チャンドラポメロ等多くの農産物を小学校や中学校・学校祭・農産物販売所「よってネ市」等で販売しみなさんに喜んで頂いた。 ②-2 野菜・果樹・草花等多くの農産物の種類と数量を販売することができた。(計28品目) ③-1 記事の内容や見やすさを考えて学校の様子や生徒の活動状況等を紹介した。 ③-2 保護者に各行事等についての案内や連絡をしたりホームページでの掲載をしたりして情報の発信をおこなうことができた。	②-1~2 地域に根ざした学校として、また、農業高校として生産から加工・販売に取り組んできた。そして、地域の農産物及びその販売状況についても学習することができた。新鮮で市場価格よりも安く安全・安心で珍しい農産物が購入できると地域の方々からも好評であった。施設・設備の老朽化における整備と有効利用、狭小な圃場の有効活用を更に検討していく必要がある。 ③-1~2 ホームページの掲載により学校と地域社会を繋ぐ大きな接点となった。ホームページの掲載を更に勧めたい。	〃 毎年の「収穫祭」を楽しみにしている町民の方も多し。高校が町にあり、若い声がするのはとてもうれしい。さまざまな手段を利用して情報発信し宣伝・広報をおこない、本校で学ぶ意欲をもつ生徒を獲得してほしい。	○情報発信と宣伝活動の充実	